

# 「わかやま何でも帳」を活用するために

和歌山県では、児童生徒が郷土の先人や歴史、文化などへの理解を深めるとともに、ふるさとへの愛着を高め、ふるさとに貢献しようとする人を育てるため、「ふるさと教育」の充実に取り組んでいます。「わかやま何でも帳」は、こうした「ふるさと教育」を推進するため、ふるさと和歌山について幅広い知識をもったり、興味ある内容を深めたりするきっかけとなる教材として、県内の中学生に1人1冊ずつ配布するものです。

本手引きは、「わかやま何でも帳」の内容や活用方法、留意点、各教科等で活用する上で参考となる事項等をまとめたものであり、本県ふるさと教育を支える教育活動の1つとして「わかやま何でも帳」の積極的な活用をお願いします。

## 1 「わかやま何でも帳」の内容と構成

(1) 中学生を主な対象としながら、小学校高学年から高校生まで活用できるように、写真や図表、データを多く掲載しています。また、関連データを参照できるようにURLも掲載しています。

(2) 『ふるさと教育副読本「わかやま発見」』（平成21年3月改訂）、「わかやまDE発見！」平成12年刊行）をもとに作成しています。

なお、『ふるさと教育副読本「わかやま発見」』は、和歌山県教育委員会ウェブサイト内の「ふるさと教育」のページから閲覧することができます。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/501100/furusato.html>)

(3) 「30市町村のお国自慢」や地域の先人を各市町村から推薦いただき、掲載しています。

(4) 和歌山ゆかりの先人は、「紀の国先人展」で紹介されている人物を中心に取り上げています。文章については、きのくに志学館（県立図書館）で公開された先人展の原文を、許可を得て一部書き直したものです。原文は「和歌山県ふるさとアーカイブ」ホームページ内の「紀の国の先人たち」のページで閲覧できます。

(<https://wave.pref.wakayama.lg.jp/bunka-archive/senjin/index.html>)

## 2 「わかやま何でも帳」の置き場所や授業等での活用例

(1) 生徒が1人1冊ずつ持っている中学校・高等学校では、各教科・総合的な学習の時間・特別の教科 道徳・特別活動等、全ての教育活動で必要なときに参照できるようにしてください。また、1学年の児童数分を配布している小学校では、児童がいつでも見ることができるよう図書室（館）やオープンスペース等に置いたり、授業で活用する際に児童がすぐに取りに行ける場所に置いたりすることが考えられます。

(2)「わかやま何でも帳」を授業で活用することで、児童生徒の興味関心を図るとともに、学習内容を身近なものとして考えることにつながります。

例えば、国語科の授業で、短歌を学習するときに、和歌山の地を詠んだ短歌を紹介し（「わかやま何でも帳」P.40）。その短歌から、作者や出典等を調べ、学ぶとともに、当時の時代背景や地域について調べたり、自分の住んでいる地域を短歌に詠むなど、学習内容を深めていくことができます。

他にも、社会科の授業で、「条約改正の実現」を学習するときに、陸奥宗光について「わかやま何でも帳」（P.74）で紹介することができます。さらには、陸奥宗光に関連して「わかやま何でも帳」の「近代国家のモデルとなる藩政改革」（P.46）や不平等条約に関わって「ノルマントン号事件」（P.48）に発展的に触れ、歴史的な人物や事件とふるさと和歌山との関わりに気づかせることで、学習内容をより身近なものとして考えさせることにつながります。

平成29年3月に配布した「わかやま何でも帳 活用事例集及び教科書対照表（中学校向け）」にも各教科等での活用事例を掲載していますので、御活用ください。

### 3 「わかやま何でも帳」で取り上げた「和歌山ゆかりの先人」の扱いについて

「和歌山ゆかりの先人」の中には、伝説として伝えられている人物、史実についての諸説やその評価について議論されている人物もあり、授業で取り上げる上で留意する必要がある場合があります。

例)

#### 1.) 神武天皇

「わかやま何でも帳」では、神武天皇は、日向を発ち、大和にいたナガスネビコを滅ぼし、大和の地に入ったと紹介しています。しかし、歴史学上この神武天皇自体が神話の中の架空の人物とする考えもあります。

日本の神話に出てくる八咫鳥や多くの神々は、神社等に祀られ、各地域の氏神様として地域住民の信仰を得ています。

【取り上げたい内容…地域の神社やお寺の歴史、記紀、神話など】

#### 6.) 西行法師

「わかやま何でも帳」では、俗名を佐藤義清。佐藤氏は田中荘・池田荘（紀の川市）と紹介していますが、西行誕生地は京都であったという説もあります。その説では、佐藤家は、代々京都に住んでおり、生活の基盤は京都にあったと考えるのが妥当であると言われてしています。

【取り上げたい内容…千載集、新古今集など】

#### 14.) 雑賀 孫一

雑賀孫一は、鈴木重意（佐大夫）を指すとする説や、重意の息子、鈴木重兼（平井孫一ともいう）や鈴木重秀、鈴木重朝を指すとする説などがあります。また、これらの人物と「孫一」が活躍したとされる年月に開きがあることや、鈴木氏の当主は代々「孫一」を名乗っていたという資料もあることから、複数の人間の伝記が混在した可能性が高いと考えられます。

【取り上げたい内容…織田信長、雑賀踊りなど】

#### 15.) 左 甚五郎

「わかやま何でも帳」には、紀伊国根来の出身という説にもとづいて「根来東坂本（岩出市）に生まれる」と紹介しています。しかし、播磨国明石(兵庫県)の出身という説もあり、今だ確定はされていません。また、「左」という姓についても諸説あり、江戸時代、腕のよい大工は、「大和大工に飛騨匠」と呼ばれ、飛騨の甚五郎がなまって左甚五郎と称されるようになったという説や左利きであり、「左の手で細工」をしたから左甚五郎と呼ばれたという説などがあります。

【取り上げたい内容…芸術鑑賞、講談や落語等の伝統文化など】

#### 19.) 紀伊国屋 文左衛門

一代で築いた巨万の富を一代で使い果たし「紀文大尽」と呼ばれた紀伊国屋文左衛門の生誕地は、「湯浅」のほか「加太浦」「和歌浦」「塩津」「熊野浦」など諸説あります。

嵐の中、江戸に蜜柑を載せて運んだ蜜柑舟や吉原の豪遊等数々の伝説が、人情本や歌舞伎の題材に多くとりあげられ、今に伝えられています。

【取り上げたい内容…千載集、新古今集など】

#### 54.) 大石 誠之助

新宮の開業医として、ドクトル（毒取る）大石と、多くの市民から慕われ、アメリカやインドで学び、私財を投じて病院や図書館を建設するなど多岐にわたり活躍しました。

しかし、明治天皇の暗殺を企てたとして社会主義者らが弾圧された大逆事件（1910年）で、死刑判決を受け処刑されました。

新宮市議会においては、2001年（平成13年）、市長提案の議案、新宮グループ6名の名誉回復と顕彰を宣言する決議案を可決し、新宮駅近くには大逆事件の犠牲者の顕彰碑が建てられました。2018年（平成30年）1月には、新宮市が大石を名誉市民に決定しました。

県内におきましても、大石誠之助の功績と大逆事件との関係等、県の先人としての扱いについて意見が分かれるところです。

【取り上げたい内容…人権教育、甥の西村伊作等の文化人、当時の生活様式など】

◇他の先人についても、出生地やエピソード、功績等諸説あり真偽が分かれるものもあります。

#### 4 その他

新学習指導要領では、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科横断的な視点で育成していくことが求められており、具体的に教科横断的に教育内容を構成する例が示されています。その中に、「伝統や文化に関する教育」、「郷土や地域に関する教育」が挙げられています。(小・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 小学校P.52及び付録6 中学校P.53及び付録6 参照)

ふるさと教育は、各地域の特色を活かしながら進めることが有効です。授業の資料として、「わかやま何でも帳」の写真やデータ等活用できる部分を提示するなど、児童生徒が身近な事柄として考えられるようにしていきます。また、学習した内容を掲示したりファイルにまとめることで、外部への発信や振り返りという部分にもつなげることができます。

児童生徒が、「あれ、なぜだろう」「どうしてだろう」と、ふるさと和歌山への興味関心をもつきっかけとしてこの「わかやま何でも帳」を活用していただければ幸いです。

また、各地域、各校にある有形無形の財産を掘り起こし、活用する取組も進めていただきたいと思います。